

鶴岡工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	国語Ⅲ	
科目基礎情報							
科目番号	0040			科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	学修単位: 3		
開設学科	創造工学科 (情報コース)			対象学年	3		
開設期	通年			週時間数	前期:1 後期:2		
教科書/教材	「新探求 現代文B」(桐原書店)、「新 探求現代文B 準拠 予習復習ノート」(桐原書店)「トータルサポート新国語便覧」(大修館書店)、国語辞典ほか						
担当教員	有地 智枝子,森木 三穂						
到達目標							
1. 論理的な文章を読み、論理の構成や展開の把握にもとづいて論旨を客観的に理解し、要約し、意見を表すことができる。また、論理的な文章の代表的構成法を理解できる。 2. 相手の意見を理解して要約し、他者の視点を尊重しつつ、建設的かつ論理的に自らの考えを構築し、合意形成にむけて口頭によるコミュニケーションをとることができる。また、自らのコミュニケーションスキルを改善する方法を習得できる。 3. 社会で使用される言葉を始め広く日本語を習得し、その意味や用法を理解できる。また、それらを適切に用い、社会的コミュニケーションとして実践できる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	論理的な文章を読み、論理の構成や展開の把握にもとづいて論旨を客観的に理解し、要約し、意見を表すことができる。また、論理的な文章の代表的構成法を理解できる。			論理的な文章を読み、論理の構成や展開の把握にもとづいて論旨を客観的に理解し、要約し、意見を表すことができる。		論理的な文章を読み、論理の構成や展開の把握にもとづいて論旨を客観的に理解できる。	
評価項目2	相手の意見を理解して要約し、他者の視点を尊重しつつ、建設的かつ論理的に自らの考えを構築し、合意形成にむけて口頭によるコミュニケーションをとることができる。また、自らのコミュニケーションスキルを改善する方法を習得できる。			相手の意見を理解して要約し、他者の視点を尊重しつつ、建設的かつ論理的に自らの考えを構築し、合意形成にむけて口頭によるコミュニケーションをとることができる。		相手の意見を理解して要約し、他者の視点を尊重しつつ、建設的かつ論理的に自らの考えを構築できる。	
評価項目3	社会で使用される言葉を始め広く日本語を習得し、その意味や用法を理解できる。また、それらを適切に用い、社会的コミュニケーションとして実践できる。			社会で使用される言葉を始め広く日本語を習得し、その意味や用法を理解できる。		社会で使用される言葉を始め広く日本語を理解できる。	
学科の到達目標項目との関係							
(F) 論理的表現力と外国語によるコミュニケーションの基礎能力を身につける。							
教育方法等							
概要	本授業の主目標は、社会人として最低限必要な「聞く」・「読む」・「書く」・「話す」ことの、総合的な能力向上を目指す。具体的な副目標は次の2点である。1 論理的思考能力の育成のために、日本語を学び直し、正確な読解力を身につける。2 グループワークを中心に、他者とのコミュニケーションの向上を図り、協調性を身に付ける。課題提出等は、目標達成のため、適宜行う予定である。国語辞典は各自用意すること。						
授業の進め方・方法	基本的に講義形式で進める。またグループワークを中心とした演習形式の授業もある。						
注意点	授業はあらかじめ、予習（本文を一読してくるなど）をしてから臨むこと。ノートは必ずとること。なお、国語辞典（紙媒体・中学校で使用したものも可）は各自用意すること。再試験は実施しない。						
事前・事後学習、オフィスアワー							
事前・事後学習はそのつど指示する。オフィスアワーは授業日に申し出があれば対応する。							
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス 評論「オブジェとイマージュ」		1年間の授業の流れを理解し、受講する姿勢を身につけることができる。 論理的な文章を読み解し、筆者の主張や、論理の展開を読み取ることができる。		
		2週	評論「市民社会化する家族」		論理的な文章を読み解し、筆者の主張や、論理の展開を読み取ることができる。		
		3週	評論「ファンタジーワールドの誕生」		論理的な文章を読み解し、筆者の主張や、論理の展開を読み取ることができる。 ある程度難しい文章の内容を理解し、要点をまとめる力をつけることができる。		
		4週	評論「普遍性」		同上		
		5週	短歌		日本の短歌に触れ、規則性や言葉の変遷や表現の多様性を理解することができる。		
		6週	短歌		同上		
		7週	表現 短歌を作る		学びを生かし、短歌を詠むことができる。		
		8週	中間試験		これまでの学習の理解度・定着度を測る。		

	2ndQ	9週	評論「言葉の意味と表徴」	論理的な文章を読解し、筆者の主張や、論理の展開を読み取ることができる。 ある程度難しい文章の内容を理解し、要点をまとめる力をつけることができる。
		10週	評論「詩人のふるさと」	同上
		11週	評論「ポストモダンと排除社会」	同上
		12週	小説「舞姫」	時代背景を理解し、登場人物の心情や情景描写を読み取ることができる。
		13週	小説「舞姫」	同上
		14週	小説「舞姫」	同上
		15週	表現 本を紹介する	本の紹介をし、ブックトークができる。
		16週	期末試験	これまでの学習の理解度・定着度を測る。
後期	3rdQ	1週	小論文 資料読解 要約	資料を読み取り、内容を要約することができる。
		2週	表現 小論文を書く	課題文を読み、自分の意見を小論文にすることができる。
		3週	日本近代文学史	日本近代文学について作者や時代の価値観を学び、鑑賞することができる。
		4週	小説「檸檬」	時代背景を理解し、登場人物の心情や情景描写を読み取ることができる。
		5週	小説「畜犬談」	同上
		6週	表現 文学作品を調べて発表する	日本の近現代文学作品を鑑賞、調査し、発表することができる。
		7週	発表	同上
		8週	発表	同上
	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	国語	国語	論理的な文章(論説や評論)の構成や展開を的確にとらえ、要約できる。	3	
				論理的な文章(論説や評論)に表された考えに対して、その論拠の妥当性の判断を踏まえて自分の意見を述べることができる。	3	
				文学的な文章(小説や随筆)に描かれた人物やものの見方を表現に即して読み取り、自分の意見を述べるすることができる。	3	
				常用漢字の音訓を正しく使える。主な常用漢字が書ける。	3	
				類義語・対義語を思考や表現に活用できる。	3	
				社会生活で使われている故事成語・慣用句の意味や内容を説明できる。	3	
				専門の分野に関する用語を思考や表現に活用できる。	3	
				実用的な文章(手紙・メール)を、相手や目的に応じた体裁や語句を用いて作成できる。	3	
				報告・論文の目的に応じて、印刷物、インターネットから適切な情報を収集できる。	3	
				収集した情報を分析し、目的に応じて整理できる。	3	
				報告・論文を、整理した情報を基にして、主張が効果的に伝わるように論理の構成や展開を工夫し、作成することができる。	3	
				作成した報告・論文の内容および自分の思いや考えを、的確に口頭発表することができる。	3	
				課題に応じ、根拠に基づいて議論できる。	3	
				相手の立場や考えを尊重しつつ、議論を通して集団としての思いや考えをまとめることができる。	3	
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	日本語と特定の外国語の文章を読み、その内容を把握できる。	3	
				他者とコミュニケーションをとるために日本語や特定の外国語で正しい文章を記述できる。	3	
				他者が話す日本語や特定の外国語の内容を把握できる。	3	
				日本語や特定の外国語で、会話の目標を理解して会話を成立させることができる。	3	
				円滑なコミュニケーションのために図表を用意できる。	3	
				円滑なコミュニケーションのための態度をとることができる(相づち、繰り返し、ボディランゲージなど)。	3	
				他者の意見を聞き合意形成することができる。	3	
				合意形成のために会話を成立させることができる。	3	

				グループワーク、ワークショップ等の特定の合意形成の方法を実践できる。	3	
				書籍、インターネット、アンケート等により必要な情報を適切に収集することができる。	3	
				収集した情報の取捨選択・整理・分類などにより、活用すべき情報を選択できる。	3	
				収集した情報源や引用元などの信頼性・正確性に配慮する必要があることを知っている。	3	
				情報発信にあたっては、発信する内容及びその影響範囲について自己責任が発生することを知っている。	3	
				情報発信にあたっては、個人情報および著作権への配慮が必要であることを知っている。	3	
				目的や対象者に応じて適切なツールや手法を用いて正しく情報発信(プレゼンテーション)できる。	3	
				あるべき姿と現状との差異(課題)を認識するための情報収集ができる。	3	
				複数の情報を整理・構造化できる。	3	
				課題の解決は直感や常識にとらわれず、論理的な手順で考えなければならないことを知っている。	3	
				どのような過程で結論を導いたか思考の過程を他者に説明できる。	3	
				適切な範囲やレベルで解決策を提案できる。	3	
				事実をもとに論理や考察を展開できる。	3	
				結論への過程の論理性を言葉、文章、図表などを用いて表現できる。	3	
	態度・志向性(人間力)	態度・志向性	態度・志向性	周囲の状況と自身の立場に照らし、必要な行動をとることができる。	3	
				自らの考えで責任を持つてものごとに取り組むことができる。	3	
				目標の実現に向けて計画ができる。	3	
				目標の実現に向けて自らを律して行動できる。	3	
				日常生活における時間管理、健康管理、金銭管理などができる。	3	
				社会の一員として、自らの行動、発言、役割を認識して行動できる。	3	

評価割合

	試験（前期）	発表（後期）	提出物	合計
総合評価割合	70	20	10	100
基礎的能力	70	10	10	90
専門的能力	0	0	0	0
分野横断的能力	0	10	0	10